



## 教祖140年祭

If you do not follow the path of the Divine Model, there is no need for a Divine Model... There is no path but the path of the Divine Model.  
Osashizu, November 7, 1889

ひながたの道を通らねばひながた要らん。(略) ひながたの道より道が無いで。  
(おさしづ 明治22年11月7日)

人救けたら  
我が身救がる

「人救けたら我が身救がる」とは、天理教(お道)の救済観をひと言で言い表しているお言葉です。このお道の信仰は、陽気ぐらしへのたすけ一条の道です。たすけ一条とは、ひたすらたすけたいとの心ばかり、ということですが、教祖はみずから五十年間にわたって、たすけ一条の手本をお残し下さいました。これをひながたの道と申します。おつとめを教えられたのも、おさづけをお渡し下さるのも、たすけ一条の親心からです。貧のどん底や迫害の中を、心明るくいそいそと通られたのも、たすけ一条であるゆえです。おさしづに、

「陽気というは、皆んな勇ましてこそ、真の陽気という。(明治30年12月11日)」

と教えられます。陽気ぐらしとは一人の世界ではありません。人々が勇ませ合い、たすけ合う暮らしのことです。頻発する自然災害や疫病の世界的流行も、私たちはたすけ合うことによつて乗り越えることができます。

教祖の手や足(道具衆)となつて、微力ではあつても相手のたすかりのため出来る苦勞は何でもさせて頂く。すると、いつの間にか私の心が明るく澄んでいることや、周囲に不思議がいっぱい現れていることに気づくことでしょう。

教祖年祭活動は、たすけ一条の道を、勇気を出して、ちよつとずつでも実行してみる旬です。お互い心定めて通らせて頂きましょう。

本島大教会布教部(隆)